

ここでは、宮崎県ゆかりの作家の作品を紹介します。中でも、宮崎県を代表する4名の作家は、年間を通して展示しています。明治時代に活躍した日本画家として、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門と、秀麗な美人画で広く知られていた益田玉城が挙げられます。一方洋画家では、塩月桃甫が台湾で美術の振興に努めるとともに、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追求しました。また、力強い筆遣いで生命力あふれる女性像を描いた山田新一は中央画壇で活躍しました。

特集展示では、宮崎ゆかりの女性作家たちによる作品を展示しています。女性であることで教育の機会を制限されたり、作品を「女性らしさ」というステレオタイプで語られたり、「女性にしては」と正当な評価を受けられなかったりと、さまざまな厳しい状況に直面しながらも、作品制作に向き合いつづけました。表現する主体としての作家たちの作品をご覧ください。

■ 展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	森 啓子	1956～	S像	1978(昭和53)	32.0×21.5×24.5	モデリング
2	松蘭 典子	1958～	髪	1980(昭和55)	38.0×19.2×24.2	モデリング
3	有馬 さとえ	1893～1978	秋窓婦人像	1947(昭和22)	117.0×91.4	油彩
4	はしぐち みよこ	1929～	望郷	1971(昭和46)	101.2×151.2	油彩
5	貴嶋 ユミ	1926～2020	ある風景	1975(昭和50)	130.5×193.7	アクリル
6	合志 暘子	1935～2000	夜一闇の中で(Ⅱ)	1982(昭和57)	116.6×91.0	油彩
7	戸川 ふみ子	1910～2001	葛城往来	1979(昭和54)	112.0×145.8	油彩
8	向原 常美	1943～2016	東麓石窟仏	1991(平成3)	116.7×80.3	日本画
9	児玉 実枝	1918～1972	花	1966(昭和41)頃	205.2×132.0	日本画
10	益田 玉城	1881～1955	元禄美人	不明	135.0×49.2	日本画
11	山内 多門	1878～1932	長閑	1915(大正4)	127.6×42.2	日本画
12	塩月 桃甫	1886～1954	百合花	1953(昭和28)	24.4×33.7	油彩
13	塩月 桃甫	1886～1954	裸婦	1953(昭和28)	72.8×60.4	油彩
14	塩月 倫	1911～1975	橘通り	1969(昭和44)	145.2×112.0	油彩
15	山田 新一	1899～1991	フランソワーズ	1983(昭和58)	91.0×65.3	油彩
16	山田 新一	1899～1991	菊の花	1928(昭和3)	60.8×50.0	油彩
17	山田 キミ	1908～1978	青柿	不明	145.5×145.3	油彩